

研究主題

小学校における外国語教育の充実

―教員の指導力向上のための校内研修プログラムの開発―

目次

第1	研究の概要	66
第2	研究の背景とねらい	67
第3	研究の方法	68
第4	研究の内容	
1	外国語教育に関する調査結果及び考察	70
2	「外国語活動・外国語科」校内研修プログラムの検証	75
	事例1 読むことについて①	76
	事例2 書くことについて②	78
	事例3 音声指導について①	80
	事例4 授業研究 + アクティビティについて②15分版	82
	事例5 授業研究 + 教材・教具の効果的な活用について15分版	84
	事例6 授業研究 + クラブルーム・イングリッシュについて15分版	86
3	研究のまとめ ―開発物の作成―	88
第5	研究の成果と今後の取組	92

<研究の成果とその活用>

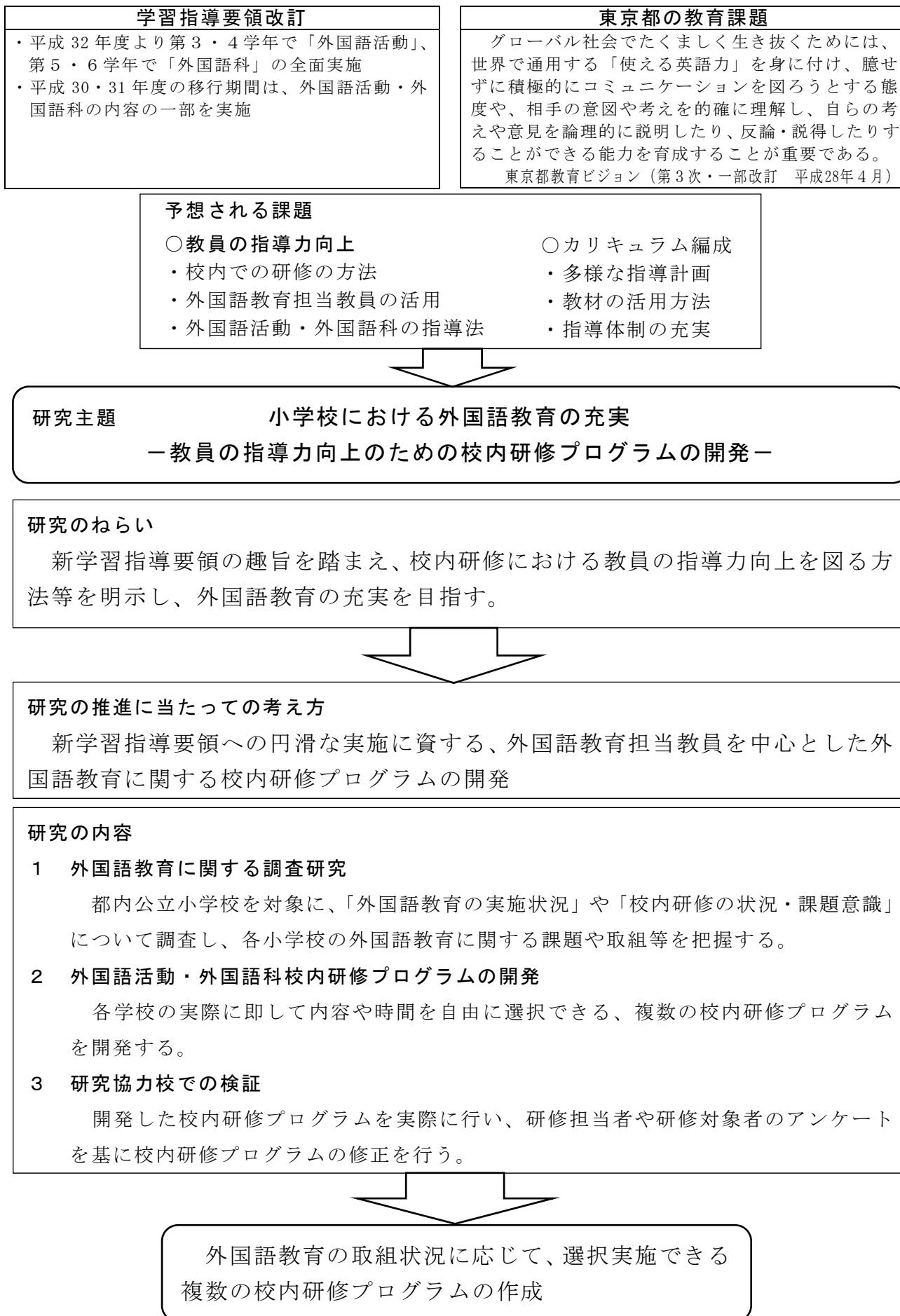
1 研究の成果

都内公立小学校における外国語教育に関する調査や研究協力校での検証等を基に学校の実態に即して作成した「小学校 新学習指導要領に対応した『外国語活動・外国語科』充実のための校内研修ハンドブック」

2 研究成果の活用

「小学校 新学習指導要領に対応した『外国語活動・外国語科』充実のための校内研修ハンドブック」を活用した各校での外国語教育に関する校内研修の充実

第1 研究の概要



第2 研究の背景とねらい

1 外国語教育における成果と課題

平成23年度より、第5・6学年で年間各35単位時間の「外国語活動」が必修化されてから、各区市町村では適切な実施に向けて様々な取組が行われてきた。「平成26年度小学校外国語活動実施状況調査の結果（概要）」（文部科学省）によると、「児童の英語に対する意識」については、70.9%の児童が「英語が好き」と回答している。また、「将来の英語使用に対する意識」については、91.5%の児童が「英語が使えるようになりたい」と回答している。さらに、「英語を使ってみたいことは何か」という問いに対しては、84.4%が「海外旅行に行くこと」を、77.1%が「外国の人と友達になること」を選択している。これらの結果からは、小学生の外国語に対する興味・関心の高まりが認められた。

その一方で、「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）（平成28年12月21日）」（中央教育審議会）では、外国語教育の課題として大きく2点指摘されている。1点目は、「①音声中心で学んだことが、中学校の段階で音声から文字への学習に円滑に接続されていない、②国語と英語の音声の違いや英語の発音と綴りの関係、文構造の学習において課題がある、③高学年は、児童の抽象的な思考力が高まる段階であり、より体系的な学習が求められること」である。2点目としては、小学校から各学校段階において、「指導改善による成果が認められるものの、学年が上がるにつれて児童生徒の学習意欲に課題が生じるといった状況や、学校種間の接続が十分とは言えず、進級や進学をした後に、それまでの学習内容や指導方法等を発展的に生かすことができないといった状況も見られている」ことである。

2 外国語活動及び外国語科について

こうした成果や課題を踏まえて、平成32年度から全面実施される小学校学習指導要領では、「小学校中学年から外国語活動を導入し、『聞くこと』、『話すこと』を中心とした活動を通じて外国語に慣れ親しみ、外国語学習への動機付けを高めた上で、高学年から発達の段階に応じて段階的に文字を『読むこと』、『書くこと』を加えて総合的・系統的に扱う教科学習を行うとともに、中学校への接続を図ることを重視する」こととされ、新たに第3・4学年で外国語活動（年間各35単位時間）、第5・6学年で外国語科（年間各70単位時間）が必修化されることとなった。

「小学校学習指導要領解説 外国語活動編（平成29年7月）」（文部科学省）及び「同 外国語編（平成29年7月）」（文部科学省）では、外国語活動・外国語科の目標は、「『知識及び技能』、『思考力、判断力、表現力等』、『学びに向かう力、人間性等』の三つの資質・能力を明確にした上で、①各学校段階の学びを接続させるとともに、②『外国語を使って何ができるようになるか』」を明確にするという観点から改善・充実を図っている。また、小・中・高等学校で一貫した目標を実現するために、そこに至る段階を示すものとして、「第2章 第2節 1目標」では、外国語活動に「聞くこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」の三つの領域についての目標が、そして外国語科に「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」の五つの領域の目標がそれぞれ設定された。外国語活動と外国語科の目標については、まず外国語活動で設定された三つの領域で、

音声面を中心とした外国語を用いたコミュニケーションを図る素地を育成した上で、外国語科では「読むこと」、「書くこと」を加えた五つの領域の言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することとしている。

この目標を達成するには、「外国語学習においては、語彙や文法等の個別の知識がどれだけ身に付いたかに主眼が置かれるのではなく、児童生徒の学びの過程全体を通じて、知識・技能が、実際のコミュニケーションにおいて活用され、思考・判断・表現することを繰り返すことを通じて獲得され、学習内容の理解が深まるなど、資質・能力が相互に関係し合いながら育成されることが必要である」と記されており、単語や文法等を暗記するなど覚えることを重視するのではなく、外国語での表現等を実際のコミュニケーションにおいて繰り返し活用することを通して、知識・技能等を育成することが求められる。

これら外国語活動・外国語科は平成 30 年度・31 年度の移行期間において、第 3・4 学年では外国語活動、第 5・6 学年では外国語科の内容の一部を行うこととなる。

3 東京都の取組

「東京都教育ビジョン（第 3 次）一部改定（平成 28 年 4 月）」では、「『使える英語』を習得させる実践的教育の推進」を主要施策の一つとして、「児童・生徒一人一人の英語力の向上を図るには、4 技能（『聞く』『話す』『読む』『書く』）のバランスのとれたコミュニケーション能力の基礎を培う必要がある。このため、『英語教育改善プラン』を策定し、目標達成のための取組を推進するなど英語教育の充実を図る」、「平成 28 年度から各地区の中心的な役割を担う英語教育推進リーダーを配置・育成し、各地区の小学校教員の英語指導力の向上を図る」を重点事項に位置付けて、各地区に外国語教育の中心となる教員を育成するなど、外国語教育を推進している。また、英語教育推進リーダーを配置している 10 地区を「英語教育推進地域」に指定し、教員の指導力向上及び児童の英語力の定着を図っている。「小学校教員の英語指導力向上」については、英語教育推進リーダーが地区の小学校に出向いて研修を行い、教員一人一人の外国語に関する指導力の向上を図っている。

また、東京都教職員研修センターでは Off-JT として、小学校教員を対象に、「小学校外国語活動の基礎・基本」、「教科化に向けた小学校外国語教育の在り方」等の指導力を高める講座や、「英語力向上集中講座」、「英語 カフェテリア講座」、「ONE DAY はじめての小学校英語講座」等、教員自身の英語力向上を目的とした講座を実施してきた。

今後は、教員一人一人が外国語教育における自身の指導力向上を一層図るために、外国語教育担当教員が中心となり、校内の教員が共に外国語活動及び外国語科について、学校の実態に即して選択できること、また外国語教育担当となった教員が誰でも研修を運営することができることを可能とする校内研修のプログラムを作成し、各校における外国語教育に関する指導力向上を目指した。

第 3 研究の方法

1 外国語教育に関する調査研究

外国語教育に関する校内研修で活用できる「校内研修プログラム」の開発に取り組む上で、先ず、都内公立小学校の外国語教育に関する課題やニーズを把握するため、質問紙による実態調査を実施することとした。

質問内容については、「学校現場における外国語教育の実施状況」、「外国語教育に関する課題意識」、「外国語教育担当教員に期待すること」、「外国語教育に関する校内研修の状況や課題意識」等を設定した。また、調査対象については、都内公立小学校 1,276 校中 360 校（各区市町村立学校から 1 校以上）を無作為抽出し、回答対象者は管理職とした。

2 外国語活動・外国語校内研修プログラムの作成

調査研究から明らかになった課題のうち、多く挙げられていた内容を中心に 15 種類の校内研修プログラムを開発することとした。また、開発する校内研修プログラムについては、参加者が単に講義を一方的に聞くのではなく、他の参加者とコミュニケーションを取りながら、主体的に外国語教育について学ぶことができるものを目指した。

一つの校内研修プログラムに要する時間は 45 分間を基本としたが、45 分間という時間を設定することが困難である場合に、短時間でもその基本的な要素を学ぶことができる、15 分間の研修例も作成した。この 15 分間のプログラムは、外国語に関する研究授業後の協議会の一部で行うことや職員夕会の後に行うこと等を想定した。

校内研修プログラムの内容は、大きく三つの視点で構成した。

第 1 は、「これまでの外国語教育の課題」、「新学習指導要領に示された外国語活動・外国語科の概要」、「年間指導計画の立案・見直し」、「1 単位時間の授業構成」等、外国語教育に関して押さえておくべき基礎的な知識に関する内容とした。

第 2 は、調査研究で、外国語の授業を進めるに当たっての課題として挙げられた「英語を用いた児童への指示、説明」、「教材・教具の準備・活用」等を基に、「クラスルーム・イングリッシュ」、「教材・教具」、「音声指導」といった実際に外国語活動・外国語科の授業を行う際のポイントに関する具体的で実践的な内容とした。

第 3 は、外国語科で新設された領域である「読むこと」、「書くこと」の指導のための単元指導計画や 1 単位時間の展開計画等に関する内容とした。

(1) 校内研修プログラムの概要

ア 45 分程度の研修 15 種類

イ 15 分程度の研修 45 分の研修会の要素を 15 分にまとめた研修 13 種類

(2) 校内研修プログラムの内容

ア 外国語教育を実施する上での基礎的な内容

○ 外国語教育についての理解を深める

○ 年間指導計画を立案する

○ 年間指導計画を見直す

○ 評価の方法についての理解を深める

○ 1 単位時間の授業をつくる

イ 実際の授業における実践的な内容

○ クラスルーム・イングリッシュについて

○ 教材・教具の効果的な活用について

○ 音声指導について①②

○ アクティビティについて①②

ウ 外国語科において新設された内容

○ 読むことについて①②

○ 書くことについて①②

3 研究協力校での検証

校内研修プログラムを各小学校で活用できる資料とするために、研究協力校（3校）において、次のように校内研修プログラムを活用した研修会を3回ずつ実施し、検証を行った。

【第1回】 45分間の校内研修プログラムを指導主事がモデルとして行った。

【第2回】 45分間の校内研修プログラムを校内の外国語教育担当教員が行った。

【第3回】 外国語活動の研究授業を行った後に、15分間の校内研修プログラムを校内の外国語教育担当教員が行った。

研修実施後、研修担当者や研修対象者に対して、研修の内容や方法に関するアンケートを行い、集計・分析・考察したことを校内研修プログラムの内容や時間配分等に反映することとした（P76～87の検証の成果と課題を参照）。

(1) 研究協力校

ア 世田谷区立池之上小学校

イ 日野市立旭が丘小学校

ウ 福生市立福生第三小学校

(2) 検証内容（協力校3校で、計9回の研修会を実施）

ア 45分の校内研修プログラム（2回） 教育開発課指導主事、外国語教育担当教員が実施

(ア) 世田谷区立池之上小学校

【第1回】 8月2日「年間指導計画を見直す」

【第2回】 8月31日「音声指導について①」

(イ) 日野市立旭が丘小学校

【第1回】 7月24日「1単位時間の授業をつくる」

【第2回】 9月1日「書くことについて②」

(ウ) 福生市立福生第三小学校

【第1回】 7月27日「外国語教育についての理解を深める」

【第2回】 8月30日「読むことについて①」

イ 15分の校内研修プログラム（1回） 研究授業後に外国語教育担当教員が実施

(ア) 世田谷区立池之上小学校

【第3回】 10月5日「アクティビティについて②」

(イ) 日野市立旭が丘小学校

【第3回】 10月26日「教材・教具の効果的な活用について」

(ウ) 福生市立福生第三小学校

【第3回】 10月31日「クラスルーム・イングリッシュについて」

第4 研究の内容

1 外国語教育に関する調査結果及び考察

開発する校内研修プログラムを、各小学校で外国語教育を担当する教員の指導力向上に活用できる資料とするために、平成29年度8月現在における各小学校の外国語教育に関わる取組や課題等を調査した。

(1) 外国語教育の実施について

「1 今年度（平成 29 年度）の外国語教育に関する教育課程上の実施状況」については、91.7%の学校が外国語教育の実施状況が「順調である」、「おおむね順調である」と肯定的に回答した。各地域、各小学校において、外国語教育の取組状況が異なる中、外国語教育を教育課程上に位置付けて、適正に実施しているという認識をもつ管理職が多いことが分かった（図 1）。

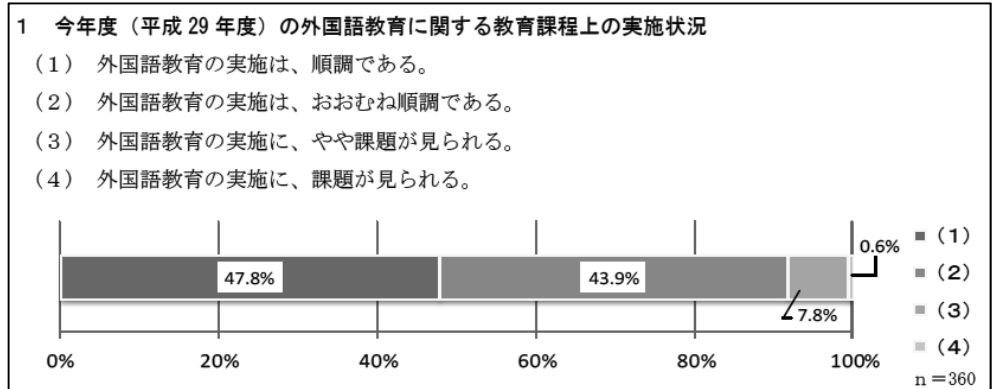


図 1 今年度（平成 29 年度）の外国語教育に関する教育課程上の実施状況

しかしながら、「2 平成 30 年度からの外国語科及び外国語活動の先行実施に向けた教育課程上の課題」では、平成 30 年度からの移行期間に向けての教育課程上の課題は様々見られた。主な課題として、「(1) 年間指導計画、単元計画の作成 (75.8%)」、「(2) 時数の確保 (72.5%)」、「(4) 英語に関する校内研究の充実 (57.5%)」が挙げられた。このことから、平成 30 年度以降の先行実施に向けて教育課程に関する課題意識が高いことが分かった。また、「(4) 英語に関する校内研究の充実」については、外国語教育に関しての授業に対する教員の不安を取り除くために、教員一人一人の外国語教育に関する授業力を向上させる必要があり、校内での研修等を充実させることが解決の一つの方法であると考えられていることが分かった（図 2）。

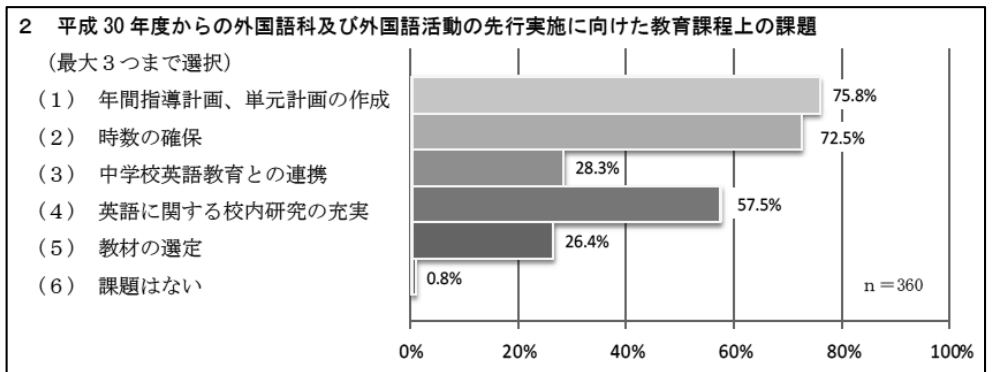


図 2 平成 30 年度からの外国語科及び外国語活動の先行実施に向けた教育課程上の課題

「3 今年度（平成 29 年度）の外国語教育に関する授業の状況」では、88.6%の学校が「順調である」、「おおむね順調である」と肯定的な回答をした。この結果から、多くの小学

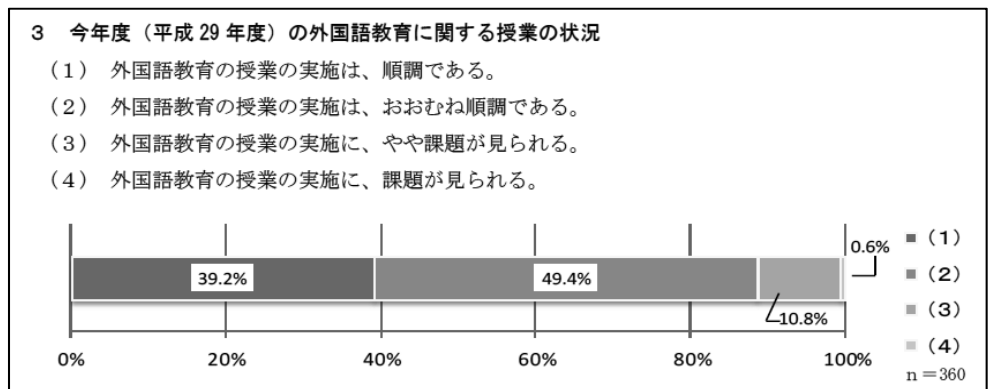


図 3 今年度（平成 29 年度）の外国語教育に関する授業の状況

校において管理職は、外国語教育に関わる学習が順調に進められていると認識していることが分かった（図3）。

多くの学校が外国語教育に関する授業の状況について「順調である」、「おおむね順調である」と回答したが、「4 担任が外国語の授業を進めるにあたっての課題」では、様々な課題が挙げられた。特に挙げられた課題は、「(2) 英語を用いた児童への指示、説明 (78.6%)」、「(5) 教材の準備・活用 (75.0%)」、「(7) 評価について (71.4%)」だった。「(2) 英語を用いた児童への指示、説明」からは、クラスルーム・イングリッシュやアクティビティの説明等、外国語を用いた児童とのコミュニケーションへの不安がうかがえる。「(5) 教材の準備・活用」については、平成30・31年度の移行期間に第3・4学年では外国語活動、第5・6学年では外国語科の内容の一部を行うため、文部科学省から新教材が導入されることから、今後もしばらくはこの項目が課題に挙がると思われる。また、「(7) 評価について」は、特に外国語科が平成32年度から必修化されるにあたり、これまでの外国語活動の評価の考え方と異なっていくのではないかと不安を感じているために課題として捉えていると考えられる。

「(10) 外国語教育についての理解 (26.7%)」、「(3) 英語を書くこと (19.4%)」、「(4) 英語を読むこと (13.9%)」は、課題として捉えている管理職は多くはない。しかしながら、「書くこと」、「読むこ

と」は、外国語科の目標の五つの領域として新たに掲げられているものである。新たな領域のためにあまり意識されていないと思われるが、このことから、外国語活動や外国語科の理解を一層深める必要があることが想定される（図4）。

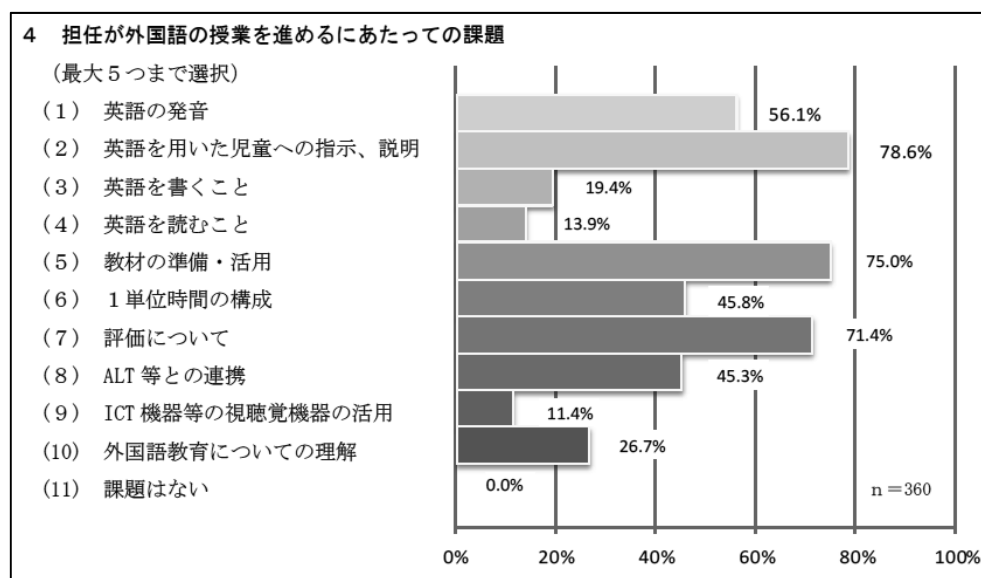


図4 担任が外国語の授業を進めるにあたっての課題

「5 校務分掌で外国語教育担当となった教員に期待すること」については、「(5) ALT (外部講師) と連絡・調整すること (75.6%)」、「(1) 外国語教育に関する研修会を運営すること (66.1%)」、「(2) 外国語教育の年間指導計画を作成すること (65.8%)」が多く挙げられた（図5）。

「(2) 外国語教育の年間指導計画を作成すること」、「(5) ALT (外部講師) と連絡・調整すること」については、自由記述にも、「一貫教育推進委員会や中学部との連携等、外部との連絡調整について期待したい」等の回答が見られた。これらのことから、外国語教育担当教員に対する管理職の期待が大きくなったことが明らかになった。

「(1) 外国語教育に関する研修会を運営すること」の自由記述には、「担任が一人で授業を展開できるように、指導力を向上させる内容の研修会を開催すること」、「校内研究（外国語活動）の推進」等の回答が見られた。外国語教育担当教員として、自校教員の外国語教育に関する指導力を高める研修会の中心となることが求められているが、外国語教育担当教員の全てが外国語が堪能であるわけではないという実態が推察される。また、英語を苦手と考えているが、学校の人的な事情で外国語教育担当となる場合もある。このことから、誰が外国語教育担当となっても、外国語教育の推進役となることができるような仕組みや方法を考える必要がある。

その他の自由記述には、「補助教材（例えば Welcome to Tokyo）の効果的な活用を図ること」、「外国語に関する

評価規準を作成すること」、「外国語に関する指導計画を作成すること」等の記載が見られた。外国語教育担当教員に期待されることは多岐にわたることが分かった。

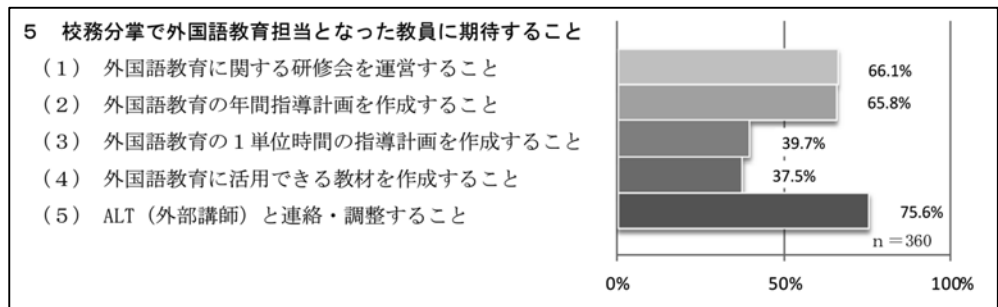


図5 校務分掌で外国語教育担当となった教員に期待すること

(2) 外国語教育に関する研修について

設問2と設問4において、具体的な課題を抱える学校が多い中、「6-① 今年度、外国語教育の校内研修会を行う回数」が、3回以上の学校は26.4%であった。3回以上ということは、3学期制の学校では各学期に1回程度は外国語教育に関する校内研修を行っていると考えられる。それに対して、0～2回までの学校は73.6%であった。そのような学校は、様々な会議や他の校内研修の中、外国語教育に関する校内研修にかけられる時間が限られている。校内研修の計画を立てる上で、校内の教員に必要な内容の精選や、長時間の研修だけではなく隙間の時間を有効活用するなどの研修時間を確保するための工夫をすることが重要となる。このことから、当センターとして、各小学校の実態に即した外国語教育に関する研修内容や方法を提案していく必要があると考えた(図6-①)。

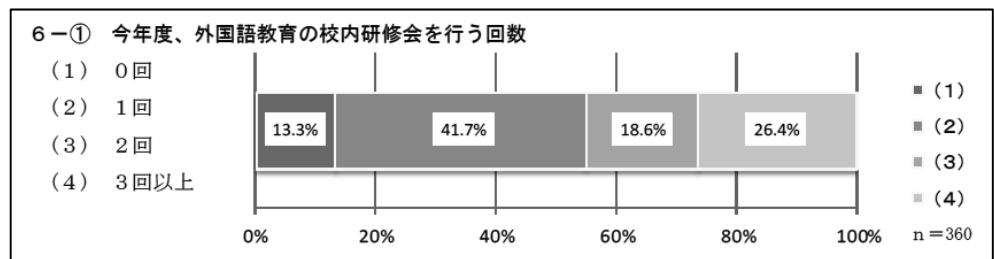


図6-① 今年度、外国語教育の校内研修会を行う回数

今年度、外国語教育に関する校内研修会を1回以上行う学校を対象に調査した「6-② 外国語教育に関する校内研修会の担当者について」では、41.1%の学校で、外国語教育担当となった教員が校内研修会を行っていた。その中で、自校の英語教育推進リーダーが校内研修会を行っている学校は25.0%であった。しかし、図5で述べたように、校務分掌上外国語教育担当となった教員は、英語教育推進リーダーのように外国語を専門に学んだ教員ばかりとは限らない。

また、「他校の英語教育推進リーダーが行っている学校」が 28.1%、「外部講師が行っている学校」が 22.2%だが、外部講師を招いた研修会の場合、予算等の関係で研修回数が限られてくる。

自由記述には、「ALT」、「市の外国語教育アドバイザー、英語活動支援員等」、「英語の免許を持った地域人材」

等、地域の人材を活用することや、

「全教員が輪番で模擬授業を行う」

というように、全教員で互いの指導力を高めるといった記述があり、各小学校における校内研修の工夫が見られた(図 6-②)。

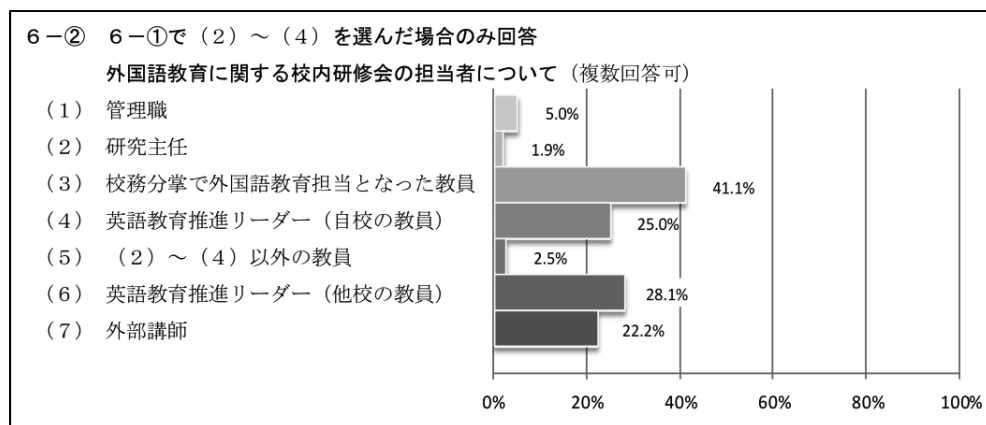


図 6-② 6-①で(2)～(4)を選んだ場合のみに回答
外国語教育に関する校内研修会の担当者について(複数回答可)

設問 6-②と同じく、今年度外国語教育に関する校内研修会を 1 回以上行う学校を対象とした「6-③ どのような研修会を行っているか」では、「(1) 外国語教育の指導方法(64.2%)」、「(2) 外国語教育の授業構成の仕方(57.5%)」といった 1 単位時間の授業づくりや、「(3) 外国語の教材・教具の活用(47.5%)」といった実践的な内容の研修が多く行われていた。これらは、まず明日の授業を成立させたいという願いから、多く取り上げられたと考えられる。しかしながら、新学習指導要領が告示された今、外国語教育の目標の理解の上に、実践を行うことが大切である(図 6-③)。

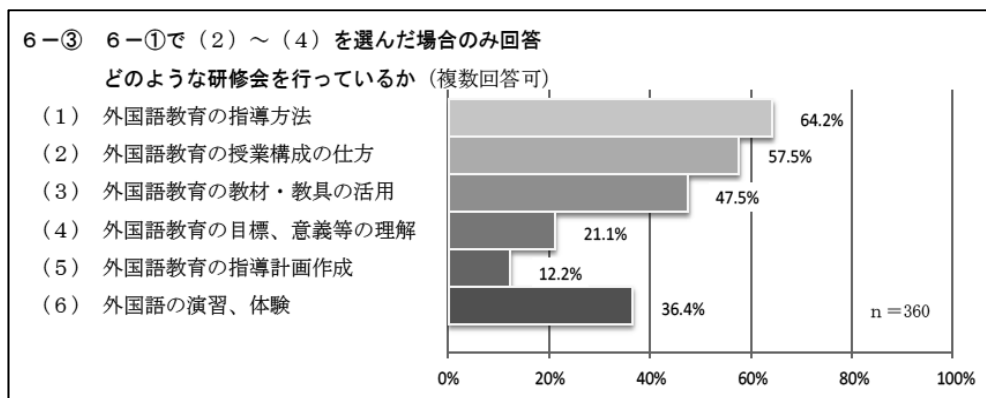


図 6-③ 6-①で(2)～(4)を選んだ場合のみに回答
どのような研修会を行っているか(複数回答可)

「7 どのような研修を行いたいか」では、「(1) 外国語教育の指導方法(79.7%)」、「(2) 外国語教育の授業構成の仕方(73.3%)」、「(3) 外国語教育の教材・教具の活用(56.7%)」、「(6) 外国語の演習、体験(53.6%)」に関する研修会を行いたいという回答が多く見られた。設問 6-③と比べると、それぞれ、現在行っている研修より回答の割合が多かった。特に「演習、体験」については、希望が多かった。外国語教育に関する教員の指導力や英語力の向上が、早急に解決すべき課題と考えているようである。

自由記述についても、「新学習指導要領について(移行について)」、「外国語活動・外国語科

における評価について（評価の視点、評価方法等）」、「年間指導計画の見直しの方法」といった外国語活動・外国語科に向けた研修や、「教材の活用方法」、「教員の英語の語彙力向上」、「教材・教具づくりの方法」

法」、「クラスルーム・イングリッシュの活用」、「英語での指示の仕方や褒め方の表現」といった教員の指導力や児童との英語によるコミュニケーション力の向上を図るための研修

を望む回答が見られた（図7）。

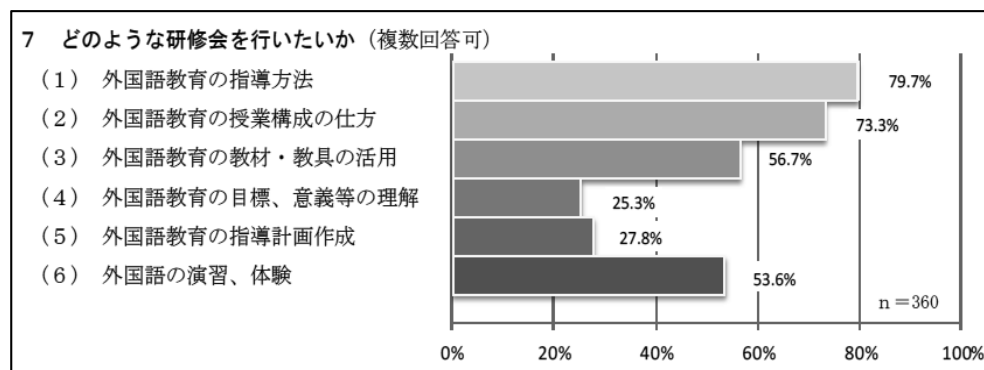


図7 どのような研修会を行いたい（複数回答可）

(3) 本調査のまとめ

今回の調査結果から、担任が外国語教育に関する授業を進めることについて、「英語を用いた児童への指示、説明」や「教材の準備・活用」等に課題意識をもっている管理職が多いことが分かった。その反面、外国語教育に関する校内研修を行っている学校は年間で0～2回が多いことから、あまり活発に行われていない状況があった。

また、外国語教育担当教員には、年間指導計画作成やALTの調整だけではなく、外国語教育に関する研修会を計画すること等、校内の教員の指導力向上のための推進役も求められていることも分かった。

移行期間においては、外国語活動・外国語科の内容の一部を行うこととなる。各学校が抱えている課題を解決していくには、外国語教育担当教員が中心となり、校内の教員の指導力向上を図ることが大切である。当センターとしては、外国語教育に関する校内研修を不安なく始めることができるようにするための提案をする必要があると考えた。

2 「外国語活動・外国語科」校内研修プログラムの検証

調査結果を基に、課題及び今後校内で行いたい研修として多く挙げられていた「授業構成や進め方」や「平成32年度全面実施の学習指導要領（外国語活動・外国語科）」、「教材・教具の活用」等から研修内容を企画した。その際、外国語教育担当教員の英語の能力に関わらず、校内のどの教員も研修会を運営できることや、研修会を開催する時間をつくるのが難しい学校に対応すること等を考慮した校内研修プログラムを作成することとした。作成した校内研修プログラムを各学校で教員の指導力向上に資する資料とするため、検証を行った。

検証の方法は、①研究協力校の教員対象に校内研修プログラムを実施、②研修終了後、研修担当者及び研修対象者を対象にした、研修の内容や時間配分等についてのアンケート調査を行うこととした。それら研修の記録やアンケート結果の分析を基に、校内研修プログラムの修正を行った。

それらの事例について、次ページ以降に掲載した。

事例1 「読むこと」について①

【本研修の概要】

本研修は、外国語科「読むこと」の設定の経緯や、目標、指導上の留意点、中学年での指導等、外国語科「読むこと」の概要や学習指導要領に示されている外国語科「読むこと」の言語活動例を確認し、単元指導計画の中に外国語科「読むこと」を設定する演習を行う。それらを基に、「読むこと」を取り入れた単元づくりの基本について学ぶ。

(1) 研修のねらい

外国語科「読むこと」の概要や言語活動例を基に、単元計画に「読むこと」を設定することを通して、外国語科「読むこと」についての理解を深める。

(2) 研修担当者

福生市立福生第三小学校 外国語教育担当教員

(3) 研修対象者


福生市立福生第三小学校 教員

(4) 準備物

- ・校内研修プログラム 12 「読むこと」について 解説編
- ・演習シート 12
- ・Hi, friends! 2 Lesson 5 “Let’s go to Italy.” の教科書・指導書

(5) 研修計画

時	○研修内容 ・主な活動	□研修担当の役割 ◇研修上の留意点 ※資料
15分	<p>・ペアをつくり、夏休みに経験したことについて、英語で質問し、答える。3人と会話をしたら終了。</p> <p>例 “Where did you go during the summer vacation?” “I went to Aomori.” “I ate Uni.”</p> <p>○外国語科「読むこと」の目標を理解すること。</p> <p>・校内研修プログラム 12 解説編やスライド資料の説明を基に、外国語科「読むこと」についての理解を深める。</p>	<p>□ウォームアップを行う。</p> <p>◇研修対象者の状況や研修内容等を基に、ウォームアップの内容を考えておく。</p> <p>◇研修対象者の活動の様子を見回り、必要に応じて言葉がけをしたり、ペアの相手になったりする。</p> <p>※校内研修プログラム 12 解説編 (本プログラムの内容に関連したスライドを作成)</p> <p>□「本研修のねらい」を確認する。</p> <p>□外国語科に「読むこと」が設定された経緯や目標、指導上の留意点などについて説明する。</p> <p>□「読むこと」についてのイメージを聞く。</p> <p>□外国語科「読むこと」の言語活動について説明する。</p> <p>◇具体例を挙げて説明する。</p>

<p>25分</p>	<p>○ “Let’s go to Italy.” の単元指導計画の中に「読むこと」の活動を位置付けること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに、教科書等の資料を参考に、 “Let’s go to Italy.” の単元指導計画の中に「読むこと」の活動をどのように位置付けるか話し合う。 ・グループで考えた活動を発表したり、他のグループの考えを聞いたりして、単元指導計画の中に「読むこと」の活動の位置付け方等の理解を深める。 	<p><演習></p> <p>※Hi, friends! 2 “Let’s go to Italy.” の教科書・指導書</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 3～4人のグループをつくり、“Let’s go to Italy.” の教科書等を基に話し合いを通して、「読むこと」の活動を位置付ける時間を設ける。 □ グループごとに、単元指導計画中に設定した活動例を発表する。 <ul style="list-style-type: none"> 「ビンゴカード」：国名があったら色を塗る。 「間違い探し」：言葉を並び替えて間違えている部分を指摘する。 「3ヒントクイズ」：色についての英語での表現を学習した後、国旗の色をヒントに出題する。 □ パンフレットを作って、お客さん役と観光会社役に分かれてロールプレイをする。
<p>5分</p>	<p>○ 研修の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・単元構成についての説明を聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 「読むこと」の単元構成の仕方について説明する。「小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック」(平成29年6月、文部科学省)

検証の成果と課題

◆ 成果 ◆

- ・研修後のアンケートでは、「講義・演習等は分かりやすい内容であった」、「時間配分、進行、形態は適切であった」、「研修資料は分かりやすい内容であった」、「演習シートは効果的であった」について、参加者の約90%が「当てはまる」もしくは「やや当てはまる」と回答した。また、自由記述には「具体的なイメージが湧く研修だった」という回答があった。このことから、研修内容については、参加者の必要感に応じたものとなったといえる。
- ・自由記述によると、演習は活動内容を考えることに難しさを感じた参加者が多い様子であったが、「いつもやっていることも多いというのがみんなの発表を聞いて分かった」、「最後に読み書きをする場合、定型文のようなものが必要になると思った」等、話し合うことで、「読むこと」についての見通しをもつことができた様子も見られた。

◆ 課題 ◆

- ・演習シートについて、自由記述の中に「ぱっと見て何をするのか分からなかった」という回答があった。記述例は別紙で準備をしていたが、学校の実態に即して演習シート内にも記述例を記載し、一部を参加者が考えるようにすることも考えられる。

事例2 「書くこと」について②

【本研修の概要】

本研修は、外国語科「書くこと」の設定の経緯や、目標、指導上の留意点、中学年での指導等、「書くこと」の概要を理解することや効果的な教材・教具を知り、1単位時間の指導計画の中に「書くこと」を設定する演習を行うことを通して、「書くこと」についての理解を深める。

(1) 研修のねらい

外国語科「書くこと」の概要や言語活動例を基に、1単位時間の指導計画に「書くこと」を設定することを通して、外国語科「書くこと」についての理解を深める。

(2) 研修担当者

日野市立旭が丘小学校 外国語教育担当教員

(3) 研修対象者


日野市立旭が丘小学校 教員

(4) 準備物

- ・校内研修プログラム 15、16 「書くこと」について①、② 解説編
- ・Hi, friends! 2 Lesson 5 “Let’s go to Italy.” 指導書

(5) 研修計画

時	○研修内容 ・主な活動	□研修担当の役割 ◇研修上の留意点 ※資料
20分	<p>○年間指導計画の見直しのポイントについて理解すること。</p> <p>・校内研修プログラム 15 解説編を基に、「書くこと」についての理解を深める。</p>	<p>※・校内研修プログラム 15 解説編</p> <p>・Lesson 6 計画案</p> <p>□「本研修のねらい」を確認する。</p> <p>□外国語科「書くこと」の概要について説明する。</p> <p>・従来の外国語活動の課題</p> <p>・「外国語科」における「書くこと」の新設</p> <p>・「書くこと」の目標</p> <p>・中学年での指導</p> <p>□外国語科「書くこと」の言語活動について説明する。</p>
	<p>○“Let’s go to Italy.” における1単位時間の指導計画の中に「書くこと」の活動を位置付けること。</p> <p>・グループごとに、教科書等の資料を参考にしながら、“Let’s go to Italy.” の単元指導計画の中に「書くこと」の活動をどのように位置付けるか話し合う。</p>	<p>□1単位時間の中で、「書くこと」における効果的な教材や指導等について考える。</p> <p>・4人のグループに分かれる。</p> <p>・単元指導計画の中から、グループごとに1単位時間の計画を担当する。</p> <p>◇担当する1単位時間は、同じ時間のグループがあってもよい。</p> <p>□グループごとに、1単位時間の中に設定した活動例を発表する。</p> <p>・第2時について考えたグループ 「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の順番</p>

<p>22分</p>	<ul style="list-style-type: none"> グループで考えた活動を発表したり、他のグループの考えを聞いたりして、単元指導計画の中に「書くこと」の活動の位置付け方等の理解を深める。 	<p>で学習を進める。</p> <p>「書くこと」については、“I want to go to _____.” の下線の部分を児童に書かせるようにする。</p> <p>フラッシュカードで国名と英語表記に慣れさせてから、文字だけのカードを用いて学習をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 第5時について考えたグループ <ul style="list-style-type: none"> 国名が英語で書いてあるフラッシュカードを用いて、英語での表現を確認することから学習を始める。 次に、その国の食べ物等が書いてあるフラッシュカードを用いて、英語での表現の数を増やす。 それらを読むことに慣れた後、自分がその国に行きたい理由として、“I want to eat _____.” 下線の部分に単語を書き入れて話せるようにする。 <p><input type="checkbox"/>発表の価値付けをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元のめあて、「他者に伝える目的をもって」ということに合致している授業の展開であること。
<p>3分</p>	<p><input type="checkbox"/>研修の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「書くこと」についての説明を聞き、理解を深める。 	<p><input type="checkbox"/>「書くこと」の単元構成の仕方について説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「書くこと」の学習を行うには、英語での表現が児童にしっかりとインプットされていることが前提となる。 書く活動を単元の中で少しずつ進めて、中学校につなげることが大切である。

検証の成果と課題

◆成果◆

・研修後のアンケートでは、「講義・演習等は分かりやすい内容であった」、「演習シートは効果的であった」については参加者の全員が、「時間配分、進行、形態は適切であった」、「研修資料は分かりやすい内容であった」については参加者の約90%が「当てはまる」もしくは「やや当てはまる」と回答した。また、自由記述には「これまでの英語の授業では、聞く・話す・読むをメインに行っていたが、『書くこと』ではどのような活動を行うべきか分かった」という回答があった。このことから、本研修において参加者の「書くこと」についての理解が深めることができたと考えられる。

◆課題◆

・自由記述において、「授業の流れを考えるとという作業は慣れず、とても難しかったがポイントを細かく教えて下さったので、自分なりに作成することができた」、「資料が分かりやすかったため、授業展開が立てやすかった」といった回答があった。校内研修プログラムの解説編の項目や参考として記載する資料の精選を行う必要がある。

事例3 音声指導について①

【本研修の概要】

本研修では、「現代の標準的な発音」、「語と語の連結による音の変化」、「語や句、文における基本的な強勢」、「文における基本的なイントネーション」、「文における基本的な区切り」といった外国語科における音声指導で取り扱う内容を理解するとともに、チャンツや歌等、音声指導に関わる活動を体験することを通して、教員自身の音声に関するスキルアップを図る。

(1) 研修のねらい

外国語科における音声指導で取り扱う内容を理解するとともに、チャンツや歌等、音声指導に関わる活動を体験することを通して、教員自身の音声に関するスキルアップを図る。

(2) 研修担当者

世田谷区立池之上小学校 外国語教育担当教員

(3) 研修対象者


世田谷区立池之上小学校 教員

(4) 準備物

- ・ 校内研修プログラム8 音声指導について① 解説編
- ・ 英語の歌の歌詞カード

(5) 研修計画

時	○研修内容	□研修担当の役割 ◇研修上の留意点 ※資料
30分	<p>“BINGO”</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 手拍子をしながら、“BINGO”の歌を歌う。“BI_GO”というように文字を抜き、その部分で手をたたいたり、飛び上がったたりする。 <p>○年間指導計画の見直しのポイントについて理解すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 校内研修プログラム8 解説編やスライド資料の説明を聞き、音声指導についての理解を深める。 ・ 発音の仕方を考える。 ・ 研修担当者の発音に合わせて、一緒に発音する。 	<ul style="list-style-type: none"> □ 研修内容を伝える。 □ ウォームアップを行う。 ◇ 研修対象者の状況や研修内容等を基に、ウォームアップの内容を考えておく。 ◇ 研修担当者が率先して楽しみ、研修対象者の緊張を和らげるように心掛ける。 <p>※校内研修プログラム8 解説編 (本研修に関連したプレゼンテーションを作成)</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 新学習指導要領の目標から、音声指導について説明する。 □ 音声指導で取り扱う内容について説明する。 □ 次の項目について、実際に発音しながら説明する。※国旗カード、例文 <ul style="list-style-type: none"> ・ 現代の標準的な発音 ・ 語と語の連結による音の変化 ・ 語や句、文における基本的な強勢 ・ 文における基本的なイントネーション ・ 文における基本的な区切り

<p>13分</p>	<p>○チャンツを体験すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> デジタル教材の音声に合わせて一緒に発音する。 <p>○英語の歌を歌う体験をすること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 歌詞を見ながら歌う。 	<p><演習 1 ></p> <p>※「“Hi, friends!”」デジタル教材 “What color do you like?”</p> <p>□「“Hi, friends!”」デジタル教材の画面を見ながら、音楽に合わせてチャンツを体験する場を設ける。</p> <p><演習 2 ></p> <p>※参加者が聞いたことのある英語の歌</p> <p>□英語の歌の歌詞の読み方と音声指導で取り扱う内容と関連付ける。</p>
<p>2分</p>	<p>○研修の振り返りをすること。</p> <ul style="list-style-type: none"> 音声指導を行うにあたり、日々取り組んでおくことや指導のポイントを聞き、音声指導についての理解を深める。 	<p>□音声指導における、教員の日々の取組のアドバイスや授業で指導する際のポイントを伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> 教員自身の英語力を高めるために、英語の好きな歌を聞いたり、好きな映画の字幕を英語にして観たりするとよい。 子供たちに、英語をたくさん聞かせることが大切である。

検証の成果と課題

◆成果◆

- 研修後のアンケートでは、「講義・演習等は分かりやすい内容であった」、「時間配分、進行、形態は適切であった」については参加者の全員が、「研修資料は分かりやすい内容であった」については94%の参加者が「当てはまる」もしくは「やや当てはまる」と回答した。また、自由記述には「英語特有のリズムやイントネーションを自然に体得させるためにチャンツや歌が有効なことがよく分かった」や「音声と発音というものの違いが分かった。また、つながりを知ることで文が聞き取りやすくなった」というような回答があった。
- 本研修では、児童に行う活動を実際に体験する時間を多く設定したことにより、研修内容について実感を伴った理解をすることができた様子が見られた。

◆課題◆

- 自由記述にて、「英語の発音と音声について専門的な質問が出るような高度な解説であった。『こここまででいい。』という内容的に必要な最小限に表現した方が理解しやすいと考える」という回答があった。15本の研修内容や時間の選択だけではなく、各プログラムの内容も学校の実態に即して、軽重を付ける必要があると考える。

事例4 授業研究 + アクティビティについて②15分版

【本研修の概要】

担任や外国語教育担当教員とのやり取りを通して、動物や海の生き物等の英語での表現の仕方を知る授業を参観した後に、アクティビティの紹介や実際に体験することを通して、アクティビティについて理解し、授業の中にどのように活用していくかについて学ぶ。様々なアクティビティを知ることで、活動のねらいに沿った授業を実践することを目指す。また、児童の実態に合わせてアクティビティを選択することができるようにする。

授業研究 第5学年 Hi, friends! 1 Lesson 7 “What’s this?”

(1) 本時の目標

- (言語) “What’s this?” の意味や海の生き物の言い方を知る。
- (内容) 熟字訓や英語に触れて、言葉のおもしろさを感じる。

(2) 授業者・研修担当者

世田谷区立池之上小学校 外国語教育担当教員

(3) 研修対象者

世田谷区立池之上小学校 教員

(4) 本時の展開

時	○学習活動	◇指導上の留意点 ☆評価
10分	<ul style="list-style-type: none"> ○挨拶をする。 ○Teacher’s Talk を聞く。 T1: Good afternoon. T2: How are you? ○パンダの赤ちゃんの話聞く。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇キーワードカードで、英語での表現を提示しながら一緒に発音する。 ◇体重や身長について、板書で示しながら英語で表現する。 ◇パンダを漢字で表記したものを示し、英語で表現することを始めとして、他の動物も紹介していく。
25分	<ul style="list-style-type: none"> ○漢字一文字を見て、英語での表現を知る。 ○漢字を見たり、ヒントを聞いたりして、生き物の名前を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◇漢字一文字を記したカードを提示し、英語での表現を確認する。 ◇漢字一文字で提示したカードを組み合わせて生き物の名前をつくり、ヒントを出す。
10分	<ul style="list-style-type: none"> ○学習したことについて、ワークシートにまとめる。 ○あいさつをする。 ○振り返りをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ☆ “What’s this?” の意味や海の生き物の名前について英語で表現している。 (行動観察、ワークシート)

校内研修プログラム 11 15 分版


(1) 研修のめあて

授業を参観することやアクティビティについての説明を聞くことを通して、効果的にアクティビティを取り入れた授業について理解する。

(2) 準備物

- ・デジタル教材
- ・絵本

(3) 研修計画

○研修内容	□研修担当の役割 ◇研修上の留意点
<p>○授業におけるアクティビティの導入の仕方を知ること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティビティを行うにあたり、教材・教具の効果的な活用法について知る。 <p>○アクティビティを行うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員役と児童役に分かれて、ヒントクイズを行う。 <div style="text-align: center;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティビティを行う際のポイントを聞く。 	<p>□研修のめあてを伝える。</p> <p>□アクティビティを行う時に効果的な教材・教具について紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵本 文章と一緒に読んでいくことやヒントクイズで活用できる。 <p>□ヒントクイズを行う。</p> <p>◇必要に応じて、事前に他の教員に声をかけておき、クイズを出題してもらう。</p> <p>□アクティビティについてのまとめをする。</p> <p>◇ヒントクイズを行うときにプレゼンテーションソフトを活用すると効果的である。</p> <p>◇英語での表現だけでなく、ジェスチャーも用いるとよい。</p>

検証の成果と課題

◆成果◆

・研修後のアンケートでは、「講義・演習等は分かりやすい内容であった」、「時間配分、進行は適切であった」について参加者の全員が、「研究授業参観後の研修の持ち方は適切であった」について 88%の参加者が「当てはまる」もしくは「やや当てはまる」と回答した。また、自由記述から「授業でのやり方やその意味がよく分かった」、「研修時間が短いことから目的が明確となった」というように、授業後に研修を行ったことや研修時間が短時間だったことへの肯定的な回答が多く見られた。このことから、授業内容と関連付けて研修を行うことで研修内容への理解が深まることや、状況に合わせて研修時間（15分）を設定することにより、集中して研修に取り組むことができると考えた。

◆課題◆

・自由記述に「時間が許せば、他学年のヒントクイズやクイズの題材が知りたい」という回答があった。今回は、一つの学年に着目して研修を行った。研修担当の教員は、参加者の意欲や疑問に応えるために次の研修を計画する必要がある。

事例5 授業研究 + 教材・教具の効果的な活用について 15分版

【本研修の概要】

学級担任が絵カードを用いながら、旅行会社役と旅行者役に分かれて行きたい国について尋ねたり答えたりする授業を参観した後に、教材・教具の紹介や実際に体験することを通して、教材・教具の効果的な活用について理解する。様々な教材・教具の活用の仕方を知ること、活動のねらいに沿った授業を実践することを目指す。また、児童の実態に合わせて教材・教具を選択し、効果的に活用できるようにする。

授業研究 第6学年 Hi, friends! 2 Lesson 5 “Let’s go to Italy.”

(1) 本時の目標

旅行ガイドと客のやり取りを通して、行きたい国について尋ねたり言ったりする表現について慣れ親しむ。

(2) 授業者・研修担当者

日野市立旭が丘小学校 外国語教育担当教員

(3) 研修対象者

日野市立旭が丘小学校 教員

(4) 本時の展開

時	○学習活動	◇指導上の留意点 ☆評価
10分	<p>○あいさつをする。</p> <p>○国の言い方を復習する。</p> <p>【Hidden card】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・裏返されたカードが何かを当てる。 <p>○3ヒントクイズをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ You can see _____. ・ You can go _____. ・ You can eat _____. 	<p>◇前時までに使用してきた国旗、建物、食べ物が記されたカードから出題する。</p> <p>◇「Hidden card」で扱ったカードをここでも活用する。</p>
30分	<p>○ロールプレイのやり方を知る。</p> <p>〈ロールプレイの流れ〉</p> <p>TA: Where do you want to go?</p> <p>In (国名). You can see _____.</p> <p>C: Great. I want to go (国名).</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ TA役がチケットに国名を記入し、Cへ手渡す。 <p>○ロールプレイを行う。</p>	<p>◇教員と代表の児童が全体の前でTA(トラベルエージェント)とC(カスタマー)の役に分かれてやり取りを行い、次に教員と児童全員でやり取りすることを通してロールプレイのやり方を伝える。</p> <p>◇TAとCの会話文を拡大したものを掲示し、確認しながら話を進める。</p> <p>◇ペアを作り、TAとC役に分かれてロールプレイを行う。終わったら次のペアを組む。</p> <p>◇“Smile”、“Gesture”、“Eye contact”、“Clear voice”を心掛けるように、声を掛ける。</p> <p>☆自分の思いがはっきり伝わるように工夫して、おすすめの国について提案したり聞いたりしている。〈行動観察、ワークシート〉</p>
5分	<p>○本時の活動を振り返る。</p>	

校内研修プログラム7 15分版


(1) 研修のめあて

外国語活動・外国語科で使用する教材・教具を知り、授業において効果的に活用する方法について理解する。

(2) 準備物

- ・絵カード

(3) 研修計画

○研修内容	□研修担当の役割	◇研修上の留意点
<p>○外国語活動・外国語科において、効果的な教材教具の活用方法について理解すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵カードを用いたゲームを知る。  <p>○グループごとに絵カードを用いたゲームを行うこと。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紹介されたゲームを実際に行う。 ・絵カードを用いたゲームを行う際のポイントを聞く。 	<p>□研修のめあてを伝える。</p> <p>□教材・教具の紹介をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・絵カード <p>□絵カードを用いたゲームを紹介する。</p> <p>“What’s this?”</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Hidden card (裏返されたカードが何かを当てる。) ・Picture reveal (カードの絵の一部を見て答える。) ・3 hint quiz (カードのヒントを3つ聞いて答える。) <p>□グループごとに紹介したゲームを行う。</p> <p>□絵カードを用いたゲームのポイントを紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず教員が見本となって行う。 ・小さいグループで行うと恥ずかしさが軽減される。 <p style="text-align: right;">等</p>	

検証の成果と課題

◆成果◆

・研修後のアンケートでは、「講義・演習等は分かりやすい内容であった」、「時間配分、進行は適切であった」、「研究授業参観後の研修のモチ方は適切であった」について、参加者の全員が「当てはまる」もしくは「やや当てはまる」と回答した。また、自由記述に「研究授業と同じように小グループ（4～6人）でゲーム感覚でできたので楽しく受講できました」、「自分でやってみることで楽しさが分かりました。多くの教材に触れてみたいと思う研修でした」という回答があった。授業公開の後に関連した研修を行うことにより、活動の意義と児童が受ける活動の楽しさを実感できたと考えた。

◆課題◆

・自由記述に「授業者が話す英語を児童がよく聞き取っていたことに、今までの積み重ねを感じました」とあった。研修担当者が担任をするクラスでの研究授業であり、日常的にクラスルーム・イングリッシュを使っているとのことであった。日常的な取組が外国語教育に効果的であることについては、コラム等で伝えることも考えられる。

事例6 授業研究 + クラスルーム・イングリッシュについて 15分版

【本研修の概要】

外国語教育担当教員と ALT の二人で会話の見本等を示しながら、行きたい国を尋ねたり、答えたりする授業を参観した後に、クラスルーム・イングリッシュの紹介や実際に体験することを通して、クラスルーム・イングリッシュについて理解し、効果的な場面を考える。様々なクラスルーム・イングリッシュを知ることで、外国語活動・外国語科の授業において効果的に活用することを目指す。

授業研究 第6学年 Hi, friends! 2 Lesson 5 “Let’s go to Italy.”

(1) 本時の目標

行きたい国について尋ねたり言ったりする表現に慣れ親しむ。

(2) 授業者・研修担当者

福生市立福生第三小学校 外国語教育担当教員

(3) 研修対象者

福生市立福生第三小学校 教員

(4) 本時の展開

時	○学習活動	◇指導上の留意点 ☆評価
10分	○あいさつをする。 “Happy Halloween!” ○発音の練習をする。 “Pet”、“Can” ○写真の物の名前等を英語で答える。 “What’s this?”	◇季節の挨拶等、日常生活との関連を図る。 ◇ALT の発音を聞いて、グループごとにその単語を画用紙に書き、声に出すようにする。 ◇ALT は児童とともに物の名前等を発音する。
25分	○ロールプレイのやり方を知る。 A:Where do you want to go? B:I want to go to _____. A:Me too. A&B:Let’s go! ◇国旗カードを見ながら、国名を英語で答える。 ◇ロールプレイを行う。	◇まず、HRT と ALT が会話の見本を行う。 ◇冬休みに行きたい場所について話すという設定にする。 ◇ALT と何度か会話し、繰り返し使われている言い回し（今日のトピック）を児童が見付けられるようにする。 ◇本時のゴールを伝える。 「どの国に行きたいか聞いたり答えたりしよう。」 ◇ペアをつくって、ロールプレイを行う。 ◇カードに書かれたそれぞれの国の場所等をワークシートにメモする。 ☆行きたい国について尋ねたり、答えたりする表現に慣れ親しむ。 (行動観察、ワークシート)
10分	◇振り返りシートに、本時の活動の振り返りをする。	◇自分の行きたい国について調べて、スピーチを行うことを告げる。

校内研修プログラム6 15分版


(1) 研修のめあて

授業を参観することやクラスルーム・イングリッシュについての説明を聞くことを通して、効果的にクラスルーム・イングリッシュを取り入れた授業について理解する。

(2) 準備物

- ・校内研修プログラム6 クラスルーム・イングリッシュについて 解説編
- ・絵カード（授業時に使用したもの）

(3) 研修計画

○研修内容	□研修担当の役割 ◇研修上の留意点
<p>○クラスルーム・イングリッシュの意義について理解すること。</p>  <p>○クラスルーム・イングリッシュを体験すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料を見ながら相手にクラスルーム・イングリッシュを言う。 ・クラスルーム・イングリッシュクイズを行う。 	<p>□クラスルーム・イングリッシュによって、児童の学習意欲を高め、授業の雰囲気をつくることができることについて伝える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくり話す。 ・はっきり話す。 ・必要に応じて、日本語で捕捉する。 <p>□参加者は、ALT が発音し、後に続いてクラスルーム・イングリッシュを言うようにする。</p> <p>◇研修担当者や ALT は、研修対象者が聞き取りやすいようにゆっくり、はっきりと話すようにする。</p> <p>□ペアを作り、クラスルーム・イングリッシュを交互に言い合う。</p> <p>□これまで使ったことのないクラスルーム・イングリッシュを見つけて、日本語でクイズを出す。</p> <p>例 A: 「立ちましょう。」は英語で何と言うでしょうか？</p> <p>B: Stand up.</p> <p>□先生役と児童役に分かれて、先生役は児童役に英語で指示を出して動かす。</p>

検証の成果と課題

◆成果◆

・研修後のアンケートでは、「講義・演習等は分かりやすい内容であった」について参加者の全員が、「時間配分、進行は適切であった」について 96%、「研究授業参観後の研修の持ち方は適切であった」について 84%の参加者が、「当てはまる」もしくは「やや当てはまる」と回答した。また、自由記述に「クラスルーム・イングリッシュを一つ覚えましたが」、「どんな声掛けをどんな言葉ですればいいか分かったので、使ってみようと思いました」という回答があった。公開授業や 15 分研修を経て、外国語活動・外国語科の授業において、クラスルーム・イングリッシュを取り入れることの効果が実感できたと考えた。

◆課題◆

・自由記述に「日頃から使っていくことが大切なのだと思います。日本語を使ってしまふことが多いので、意識して使っていこうと思いました」という回答があった。外国語活動・外国語科の授業だけでなく、日常的にクラスルーム・イングリッシュを意識することや教室等校内環境を工夫することについては、コラム等で伝えることも考えられる。

3 研究のまとめ ―開発物の作成―

都内公立小学校を対象とした外国語教育に関する実態調査や研究協力校における検証を基に、開発した校内研修プログラムを「小学校 新学習指導要領に対応した『外国語活動・外国語科』充実のための校内研修ハンドブック」（以下、「校内研修ハンドブック」と表記。）として、学校現場でまとめることとした。

校内研修ハンドブックは3章構成とし、次のように編集した。

(1) 各章について

ア 第1章について

校内研修ハンドブックを作成した背景や区市町村対象に無作為抽出で行った外国語教育に関する調査研究の結果、本書の活用の方法、実際の校内研修の様子について記述した。研修担当者が本書を活用する前に一読し、外国語活動・外国語科についての理解を深めた上で研修に臨むことができるようにした。

本章を読むことによって、研修担当者が、教員一人一人の外国語活動・外国語科に関する指導力向上を図るために校内研修を推進していこうとする意識を高めることができると考えた。

イ 第2章について

学校の実態に合わせて内容を選択し、実施できるように、校内研修プログラムは実態調査等を基に15種類開発した。それぞれの研修内容に、「解説編」と「研修の実際編」のページを設けた。全て読みやすさや活用のしやすさを考え、見開きページで作成した。

「解説編」は、研修内容についての解説を記載し、そのまま研修資料として活用できるページとした。また、項目には研修の概要や具体例等、その特徴ごとに色分けをして視覚的に内容を捉えることができるようにした。

「研修の実際編」は、研修担当者が研修計画を立案する際の資料となるページとした。45分間の研修内容を基本としたが、内容によっては15分間で行うことを想定した研修も開発した。こちらも、学校の状況に合わせて、研究授業後の協議会や職員夕会后等に行うなど、無理なく研修計画を立てられるようにした。

学校の実態に即して校内研修をスタートさせることにより、日常的、継続的な研修を行い、校内の教員一人一人が互いに外国語活動・外国語科に関する指導力を向上させていこうとする環境がつけられると考えた。

ウ 第3章について

第2章の研修例には、それぞれ講義だけでなく演習の時間も用意した。研修内容によって、使用が効果的であると考えられるものに関しては、演習シートやスライド資料を作成した。第3章には、それらを資料として掲載することとした。また、それぞれの演習シートについては、記入例を記載した演習シート例も作成した。

必要に応じて演習シート例を活用しながら演習を進めることにより、校内のどの教員が研修担当者となっても、滞りなく校内研修を進めることができると考えた。

(2) 校内研修プログラム及び演習シートについて

ア 校内研修プログラム・解説編

解説編には、各研修において重要である内容の要点をまとめた（図8）。

解説編

(ア) 研修12 読むことについて①

(イ) 研修のねらい

「研修12」では、外国語科「読むこと」が設定された経緯や目標等を知り、言語活動をどのように単元に位置付けるか、児童の活動をどのように進めるかを考えます。そのことを通して「読むこと」を取り入れた単元づくりの基本について学びます。

(ウ) 外国語科「読むこと」の概要

外国語科「読むこと」の設定の経緯や、目標、指導上の留意点、中学年の外国語活動での文字に関する指導について確認します。

○「読むこと」に関連した従来の外国語活動の課題

- 音声中心で学んだことが、中学校の段階で「音声から文字への学習」に円滑に接続されていないこと。
- 高学年は、児童の抽象的な思考力が高まる段階であり、より体系的な学習が求められること。

○「読むこと」の目標

ア 活字体で書かれた文字を識別し、その読み方を発音することができるようにする。
 イ 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現の意味が分かるようにする。

- 中学年の「話すこと」「聞くこと」の活動を踏まえた学習となるようにすること。
- 中学校の内容の前倒しではなく、音声と文字とを関連付ける指導に留めること。

○「読むこと」の留意点

高学年から発達段階に応じて段階的に文字を「読むこと」を加えて総合的・系統的に扱う教科学習を行うとともに、中学校への接続を図ることを重視します。

- 「推測しながら読む」ことにつながるよう、音声で十分に慣れ親しんだ語句や基本的な表現について、音声と文字とを関連付けて指導すること。
- 日本語と英語との語順等の違いや、関連のある文や文構造のまとまりを認識できるようにすること。

○中学年の外国語活動での文字に関する指導

3 「指導計画の作成と内容の取扱い」
 (2) イ 文字については、児童の学習負担に配慮しつつ、音声によるコミュニケーションを補助するものとして取り扱うこと。

(エ) 「読むこと」の言語活動の具体例

「読むこと」の言語活動には、次のような例があります。

言語活動例	具体例
(ア) 活字体で書かれた文字を見て、どの文字であるかやその文字が大文字であるか小文字であるかを識別する活動	・不規則に並んだ活字体の文字を見ながら、該当する文字に丸を付ける。 ・自分の名前の綴りを言って、自分の名前を相手にしっかりと伝える。
(イ) 活字体で書かれた文字を見て、その読み方を適切に発音する活動	・歌やチャントを使って、文字には、名称と音があることに気付かせる。 ・指定したアルファベットから始まる単語をペアグループで協力して制限時間内に多く言う。
(ウ) 日常生活に関する身近で簡単な事柄と内容とする指示やパンフレット等から、自分が必要とする情報を得る活動	・海外旅行のパンフレットから行きたい国で有名な食べ物やおすすめの季節等の情報を得る。 ・テレビ番組から、曜日や見たいスポーツ等の情報を得る。
(エ) 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語句や基本的な表現を絵本等の中から識別する活動	・絵本の読み聞かせをし、やりとりを行う中で、絵本の文から該当する単語を見付ける。 ・小学校の思い出アルバムを作成し、互いのアルバムを読んで、その意味を捉えさせる。

○単元における「読むこと」の言語活動の例（第5学年「When is your birthday?」上記の7から9の言語活動に対して、単元における「読むこと」に関する言語活動例を示します。）

時	活動例	言語活動例（読むこと）
第1～2時	祭りや行事に関するまとまりのある話を聞いておおよその内容を捉える。	・アルファベットの 大文字 や 小文字 を識別する。 ・12か月の 読み方 を言う。 ・行事の 読み方 を言う。 ・誕生日カードを 読む 。 ・誕生日カードの To の後ろに自分の名前を書く。
第3時	好きな物について尋ねたり答えたりする。	・色やスポーツの 読み方 を言う。
第4時	誕生日等を聞き取ったり、誕生日に欲しい物を尋ねたり答えたりする。	・12か月の 読み方 を適切に発音する。 ・色の 読み方 を適切に発音する。 ・スポーツの 読み方 を適切に発音する。 ・誕生日カードの From の後ろに自分の名前を書く。
第5時	誕生日カードを書く。	・アルファベットの 大文字 や 小文字 を識別する。 ・誕生日カードに12か月を表す単語を 大文字 で書く。 ・12か月の 読み方 を適切に発音する。
第6時	誕生日カードを書きながら、慣れ親しんだ表現を見て、意味が分かるようにする。	・アルファベットの 大文字 や 小文字 を識別する。 ・書いた12か月を表す単語の 読み方 を適切に発音する。
第7時	カードに書かれている誕生日を説もうとする。	・カードを聞き合い、カードを 読む 。 ・書かれている内容について会話をする。

図8 研修12 読むことについて① 解説編

(7) 研修番号及び研修項目

校内研修プログラムは、外国語教育に関する基礎的な内容、指導法等についての内容、新学習指導要領において新設の内容の全15種類を開発した。それぞれ研修番号や研修項目を記した枠の色を変えて、視覚的に研修内容が分かるようにした。

(イ) 研修のねらい

研修で何を学ぶのか、研修を通して身に付けたいこと等を明記した。研修担当者が研修の導入時に「研修のねらい」を伝えることによって、研修対象者が目的意識をもって研修に臨むことができると考えた。

(ウ) 研修内容例①

研修内容の概要等、研修内容についての知識的な理解を図る項目とした。また、項目ごとに○印を付けて要点を明記した。

(エ) 研修内容例②

研修内容に関連した、活動例や単元計画例等、研修内容に関する例等の例示を記載する項目とした。

イ 校内研修プログラム・研修の実際編

研修の実際編は、研修担当者が研修を行うに当たって準備するものや研修計画等についてまとめた（図9）。

研修の実際編

研修12 読むことについて①

(オ) 事前に準備する物

- ・小学校学習指導要領解説 外国語編（文部科学省 平成29年7月）
- ・Hi, friends! 2
- ・研修12「解説編」（P62、63）
- ・演習シート（P92、93）

(カ) 研修の留意点

- ・「読むこと」の単元計画を立案する際、研修対象者が中学年での音声による指導や、中学校での指導を意識できるようにすること。

(キ) 研修例（45分）

時間	研修項目	研修内容	使用する物
8分	○外国語科「読むこと」の概要について理解すること。	○ウォームアップを行う。 ○研修のねらいを伝える。 ・「読むこと」と聞いてイメージすることを研修対象者にインタビューして、従来の中学校での指導との違いを明確にする。 ○「読むこと」に関連した従来の外国語活動の課題、「読むこと」の目標、「読むこと」の留意点、中学年での指導等について説明する。	・本書 P62、63
32分	○外国語科「読むこと」の言語活動について理解すること。 ○「読むこと」の言語活動を取り入れた単元の流れを考えること。	○外国語科「読むこと」の言語活動について説明する。 ○一単元の中に「読むこと」の言語活動をどのように取り入れていくかを考えるようにする。（グループ活動：15分） ・児童が大文字と小文字を識別したり、読み方を発音したり、情報を得たり、語句や表現を識別したりすることを意識する。 ・考えた活動の流れを共有する。	・小学校学習指導要領解説 外国語編 ・Hi, friends! 2 ・演習シート P92、93

(ク) 研修例（15分）

時間	研修項目	研修内容	使用する物
10分	○外国語科「読むこと」の概要について理解すること。	○研修のねらいを伝える。 ○外国語科「読むこと」の概要を伝える。 ・「読むこと」に関連した従来の外国語活動の課題 ・「読むこと」の目標 ・「読むこと」の留意点 ・中学年での指導等	・本書 P62、63 ・小学校学習指導要領解説 外国語編
5分		○「読むこと」の言語活動例を伝える。	

(ケ) 新学習指導要領における外国語「読むこと」の扱い コラム

新学習指導要領により、外国語活動が高学年から中学年へ移行し、高学年に外国語科が新設されたため、小学校に中学校の内容が前倒しされたかのような印象を受けるかもしれませんが、そうではありません。高学年に導入された外国語科の目標を「読むこと」に着目して読むと、

- (1) 読むことに慣れ親しみ、実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けること。
- (2) 音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読み、自分の考えや気持ち等を伝え合うことができる基礎的な力を養うこと。

が挙げられています。

(1)は、これまでに慣れ親しみ、声に出せるようになっていく語彙や表現を可視化したものを、推測して読めることであって、音声と綴りの関係を理解し、未習の語彙を読めるようになることを目的としているわけではありません。

また、(2)は、児童が大きな意味を理解する方法に慣れていることを前提としていますので、単語を見て、何度も発音されるのを聞いて、文字と音の関係を大まかに理解し、慣れ親しんだ単語が読めるようになることを求めています。

中学校で発音と綴りとを関連付けて指導することに留意し、小学校では音声と文字とを関連付ける指導に留めます。

図9 研修12 読むことについて① 研修の実際編

(オ) 事前に準備する物

研修を行うに当たって、事前に準備をしておく必要がある教材・教具を記載した。

解説編や第3章の演習シートも必要に応じて活用できるように、ページを記した。また、それぞれ研修のどの時間で扱うかについては、(キ)研修例には「使用する物」の項目を設けて研修担当者が準備した教材・教具を効果的に扱うことができるようにした。

(カ) 研修の留意点

研修を滞りなく、また研修対象者が適切に研修内容を学ぶことができるようにするために、研修担当者が留意する必要がある点を記した。

(キ) 研修例（45分）

「時間」、「研修項目」、「研修内容」、「使用する物」の項目を設け、研修計画例を記載した。まず、研修対象者の緊張感をほぐすことができるように、全てのプログラムの冒頭にウォームアップの時間を設けた。また、適宜演習を取り入れ、体験的に研修対象者が外国語活動・外国語科を学ぶことができるような研修計画例とした。

(ク) 研修例（15分）

研究授業後の協議会と一緒にやることや職員夕会後に行うこと等を想定し、内容によっ

- 90 -

て、15分で実施できる研修例を開発した。これらは、45分の研修例の中で特に重要である部分を短くまとめたものである。長時間の研修時間を設定することが困難な学校に対応できるものとする。

(ケ) コラム

外国語教育についての理解を深めるために、東京都の取組や15種類の校内研修プログラムで触れられていない外国語教育についての内容等を読み物として記した。

ウ 演習シート及び演習シート例

研修内容により、演習シートの活用が有効と思われる研修例について、演習シート例と演習シートを作成した。学校の実態に応じて、演習シート例を参考に演習シートを活用して研修を計画・実施できるようにした(図10)。

研修7 (P42~45) 演習シート例

演習 "Welcome to Japan." (We Can! 2 Unit 2) における教材・教具の効果的な活用方法について考えます。

第6学年 Welcome to Japan. (1/8時間)

●本時の目標●

- 行事や食べ物の言い方が分かるとともに、「Welcome to Japan.」という表現を読み、書き写す。
- 日本と外国語の伝統的な「行事」、「食べ物」、「遊び」について聞いて概要を捉える。

(コ) 記入例

時間	○学習内容	児童の活動	使用する教材・教具	指導上の留意点
10分	・挨拶をする。	・歌やチャンツに取り組む。	CD	
30分	○日本の行事や食べ物、遊びの言い方を知ること。	・日本の行事や食べ物、遊びの英語での言い方を知る。	デジタル教材 音声教材	・英語での表現が分かるようにデジタル教材で日本の地図上に行事や食べ物、遊び等を示すようにする。
	○"Welcome to Japan."というセンテンスを書き写すこと。	・"Welcome to Japan."という表現を読み、書き写す。	デジタル教材 音声教材 単語カード	・児童が書きやすいように、拡大して映し出すようにする。
	○3つのヒントを聞き、それに該当する行事を選んで発表すること。	・3ヒントクイズをする。	デジタル教材 音声教材	・デジタル教材やWe Can!を見ながら、児童が答えを選ぶことができるようにする。
	○単語を書き写すこと。		絵カード 単語カード 音声教材	・音声を聞いて繰り返し言った後、単語を選んで書き写すようにする。
5分	○振り返りをする。	・振り返りカードに記入する。	振り返りカード	
	・挨拶をする。			

- 90 -

(カ) 研修7 (P42~45) 演習シート

演習 "Welcome to Japan." (We Can! 2 Unit 2) における教材・教具の効果的な活用方法について考えます。

第6学年 Welcome to Japan. (1/8時間)

●本時の目標●

- 行事や食べ物の言い方が分かるとともに、「Welcome to Japan.」という表現を読み、書き写す。
- 日本と外国語の伝統的な「行事」、「食べ物」、「遊び」について聞いて概要を捉える。

時間	○学習内容	児童の活動	使用する教材・教具	指導上の留意点
10分	・挨拶をする。	・歌やチャンツに取り組む。		
30分	○日本の行事や食べ物、遊びの言い方を知ること。	・日本の行事や食べ物、遊びの英語での言い方を知る。		
	○"Welcome to Japan."というセンテンスを書き写すこと。	・"Welcome to Japan."という表現を読み、書き写す。		
	○3つのヒントを聞き、それに該当する行事を選んで発表すること。	・3ヒントクイズをする。		
	○単語を書き写すこと。			
5分	○振り返りをする。	・振り返りカードに記入する。	振り返りカード	
	・挨拶をする。			

- 91 -

図10 研修7 教材・教具の効果的な活用について 演習シート例及び演習シート

(コ) 演習シート例

演習シートを用いて演習を行う際、滞りなく演習を進めるために、演習シートの記入例や類似した内容の演習シート記入例等を掲載した。記入箇所は書体を変え、分かりやすく記した。

(カ) 演習シート

演習シートによっては、一部をあらかじめ記入しておき、必要な箇所だけ太枠で囲むなど、焦点化して演習に取り組むことができるようにした。

第5 研究の成果と今後の取組

1 研究の成果

調査研究によって、現在小学校において外国語教育に関して課題と捉えている具体的な内容や、今後、外国語教育を充実させるために、校内研修で取り扱う必要性のある内容を把握することができた。このことは、校内研修プログラムを開発するにあたり貴重な資料となった。

例えば課題として多く挙げられていた内容を基に、「授業の進め方」や「外国語教育における各活動」、「新学習指導要領」等について、教員が大まかな理解ができるような資料とした。また、校内で「外国語教育担当となった教員の誰もが実施できる」研修例を示すこと、さらに各小学校の実態に即して内容、時間を選択してくことを考慮した校内研修プログラムを企画することとした。

全15種類の校内研修プログラムは、調査研究や研究部会において、指導主事と教員研究生による協議を基に開発を進めた。一つ一つの校内研修プログラムについては、研究協力校での検証の他にも、分科会内でグループをつくって模擬研修を行い、研修の流れや準備物等を吟味した。その振り返りを基に、校内研修プログラムの修正を重ねた。このことを通して、各小学校が平成32年度から全面実施される外国語活動・外国語科に関する校内研修を円滑に始めることに期待ができる校内研修プログラムを開発することができた。

また、全9回実施した研究協力校による研修の検証では、研修を行った研修担当者や研修参加者を対象として、研修後にアンケート調査を行った。その結果、研修の流れや時間配分、演習シートに関する意見や改善点を聞くことができ、それを校内研修プログラムに反映させた。

具体例としては、「校内研修プログラムの解説編の内容と研修例の演習の関連付けをより強めることにより研修内容についての理解が深まること」、「講義時間を修正したり説明を工夫したりして演習時間を長く設定することにより、参加者が集中して研修を受けられるようになること」、「演習シートは、その記入例も作成して必要に応じて使用すること」等により研修を円滑に進めることができること等がある。

2 今後の取組

研究の成果物である「**小学校 新学習指導要領に対応した『外国語活動・外国語科』充実のための校内研修ハンドブック**」は、学校現場で活用されなければその意味をなさない。そこで、校内研修ハンドブックの存在やその目的、使用方法等について、各学校に周知する必要がある。

例えば、校内研修ハンドブックについての紹介文書を各校へ配布することや、各区市町村教育委員会や各学校を対象とした、校内研修ハンドブックの活用方法について説明会を行うこと、校内研修ハンドブックを活用して研修を行っている様子を紹介する機会を設けること等の取組が考えられる。また、当センターホームページに校内研修ハンドブックの電子データを掲載し、必要に応じてダウンロードできるようにする。特に、演習シート例や演習シートは編集することができるデータとする。同時に、校内研修ハンドブックの特徴や内容、活用の仕方についてのスライド資料も掲載し、普及・啓発を行う。